

やってみよう！ ダンボールコンポスト



マッシュマン5

準備するもの



ダンボール箱(防水加工でないもの) 中敷き用ダンボール



基材:ピートモス 15ℓ・くん炭 10ℓ
(ホームセンターなどで購入可)
※上記は目安の量



スコップ



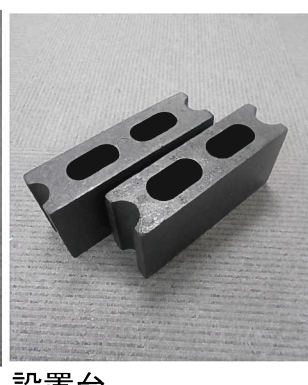
クラフトテープ
(ガムテープ)



新聞紙

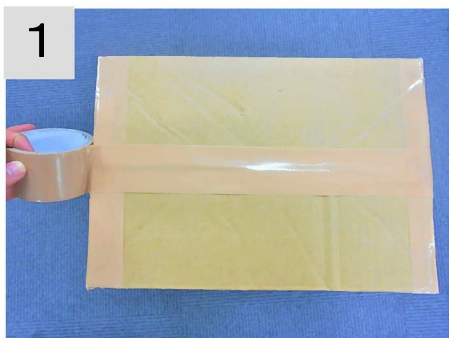


覆い布
(古布・タオル
防虫ネットなど)



設置台
(ブロック・カゴ
発砲スチロールなど)

ダンボールコンポストの作り方



1 虫が入り込まないように、ダンボールの隙間を塞ぐ。



2 箱の底に新聞紙を敷く。
(余分な水分を吸収するため)



3 箱の底に中敷き用ダンボールを入れて補強する。



4 ピートモスとくん炭を3:2の割合で箱の7割くらいまで入れる。



5 水を加えてかき混ぜる。
(強めに握って、軽く固まるくらい)



6 布を被せて、通気性を確保するため、設置台の上に置いたら完成。

生ごみの入れ方とお手入れの仕方



生ごみを入れる



しっかり混ぜる



毎日繰り返す

生ごみ投入のポイント

※ダンボールコンポストは雨に濡れず、風通しの良い場所に設置する。

- ▶ 投入できる目安の量 1日当たり500g程度(25ℓの場合)
- ▶ 投入期間は3～6カ月程度。
- ▶ 基材が乾燥している場合は水を加えてかき混ぜる。
- ▶ 生ごみを入れない日も、発酵に必要な空気を取り込むためにかき混ぜる。
- ▶ 生ごみをなるべく細かくすると、分解されやすくなる。
- ▶ 白カビの発生は発酵が進んでいる証拠なので問題ありません。
- ▶ 虫の発生を防ぐため、生ごみはなるべく早く投入する。
- ▶ 分解が順調に進んでいると温度が20～40℃になる。

3カ月間、毎日500gの生ごみを投入すると、約45kgの燃えるごみの削減になるんだよ！
また、二酸化炭素を排出しないから、地球にとってもやさしいんだ！

まずは全部食べきる・使い切るのが1番よ！



入れて良いもの・良くないもの

○ 良いもの

- ▶ 炭水化物(ごはん・うどん・パン など)
- ▶ 加熱した肉、魚
- ▶ 野菜や果物の皮、切りくず
- ▶ 発酵食品(ただし味噌は×)
- ▶ 油(揚げ物した後の油でも○)
- ▶ コーヒーかす、茶殻など(消臭効果有)

× 良いもの

- ▶ 生肉、生魚・・・臭いの原因になる。
- ▶ 柑橘類・・・殺菌成分があるため、発酵の妨げになる。
- ▶ 玉ねぎ、トウモロコシの皮・・・分解されにくい。
- ▶ 骨、貝殻・・・分解されない。
- ▶ 漬物、味噌・・・塩分が強いと堆肥に向かない。

熟成

※熟成を行わずに堆肥として使うと、根を痛めてしまうため、必ず熟成を行います。

熟成を始めるタイミングと方法



始めるタイミング



- ▶ 分解のスピードが遅くなった。
- ▶ 基材にべたつきを感じるようになった。

- ▶ 1週間に1回程度水を加えてかき混ぜる。
- ▶ 期間 夏期1カ月・冬期2カ月

堆肥で使う

生ごみの形がなくなり、水を加えても温度が上がらなくなったら熟成完了。使用する際は、土と堆肥を**3:1**の割合で混ぜて使用します。

可燃ごみの内、生ごみ・手を付けていない食品ごみの割合は約**15～20%**もあるんだ！
みんなで取り組むことで、ごみは確実に少なくなることができるよ！
さあ、一緒に始めよう！



豊明市役所
環境課 ごみ減量推進係
TEL 0562-92-1113